

「食」を通じて竹原を元気にしたい



竹原の食を考える会
副会長 大沢 範員さん

「竹原には『これ』という食べ物がない。なんとか「食」の面から竹原を元気にできないかと思ひ、活動を始めました。」
そう話すのは、「竹原の食を考える会」の大沢範員さん。

今年で3年目を迎える食を考える会は、現在、33人の会員で構成され、食育や名物料理の創作に取り組んでいます。

昨年には、「知産知食推進事業」竹原の食伝道」が公募型補助金の採択事業となりました。地産池消を進めながら、「食」を知り、子どもたちに竹原の「食」を伝える。このために、これまで様々な活動を行ってきました。

田植えや稲刈りを通して、生産・消費について学び、参加者同士の交流を図る「をちこち田んぼアート」や生産者、

販売者、消費者などが参加して情報共有を図る「食のディスプレイ」や「郷土料理の復元・普及を目指す」たけはら魚飯」。

「魚飯の活動では、市内飲食店の協力のもと、図書館に保管されていたレシピを参考に、復元に成功しました。評判も良いようなので、これからは魚飯を提供できる店舗数を増やしたり、レトルト化に挑戦して、市外に普及したりしたい。」

市内外から、「食」を通じて竹原を元気にしていくという目標に向かって、食を考える会の活動はまだ続きます。



↑をちこち田んぼアートの様子。今年度は、漁やじゃがいも掘りを体験するプログラム「新たけはら生活 2010」も実施予定。

これが魚飯！魚飯を提供する店舗には、「のぼり」が立っています。↓



協働のまちづくりを推進するため、市では市民のみなさんが自ら企画・運営する活動を支援する「公募型補助金制度」を設けています。平成21年度には2件の事業、平成22年度には3件の事業を採択しました。どの活動も、市民が主体となって、積極的な取り組みを進めています。

中心となって活動に取り組む人たちにそれぞれの思いを語っていただきました。

市民の力はこんなにも竹原を元気にしています！！

音楽と踊りを通して市民を元気に！



竹原やっさっさ流し踊りチーム
代表 武田 靖子さん

「やっささーやっささー！」
元気のいいかけ声が毎月、市内のダンス教室から聞こえてきます。

平成19年、古くから伝わる踊り「竹原やっさ」を、より親しみやすくアレンジした曲に合わせて踊るチーム「竹原やっさっさ流し踊りチーム」がデビューしました。最初のイベントは竹まつり。その後、イベントや福祉施設などで踊りを披露し、昨年10月には、鹿児島県で開催された「第6回はんや全国大会」で3位入賞を果たしました。

代表の武田靖子さんは、「音楽と踊りは、元気を与えてくれます。40人いるメンバーは、30〜70代と幅広い年齢の人たちで、みんな踊りを楽しみ、好きになって活動し

ています。福祉施設入所者の方に披露したときは、とても喜んでいただいたんですよ。」と話します。

「体を使うので、健康づくりに役立っています。」
と話すのは、青木智恵子さん。始めて1年ですが、体の調子が良くなったとか。また、若手ホープの長尾美貴さんは、「市内で育ってきた団体。難しいかもしれないけれど、若い人に継承していきたい。」と今後の目標を語ります。

踊る人、見る人を楽しい気持ちにする「竹原やっさっさ」。今後の活躍が楽しみです。

市内で活躍する人の唄・津軽三味線・篠笛の伴奏に合わせて、イベントを盛り上げます。↓



↑練習に励むメンバーの顔は真剣！



竹原を元気にする“市民力” ～公募型補助金制度の活用～

男女が出会い、人材が育つ場をつくりたい



婚活実行委員会 委員長 柿本 弥生さん
竹原商工会議所女性部 会長 鴨宮 良江さん

昨年、商工会議所女性部が男女の出会いの場をつくる「婚活クラブマリアーージュ」を企画し、活動をスタートさせました。「竹原に若者が集う場を、にぎわいが生まれる場をつくりたい。」という思いがきっかけです。

今年度、マリアーージュでは、会員を中心とした実行委員会が企画・運営するイベントを年間5回程度実施する予定です。4月には、的場でゲーム形式の清掃活動を行い、その後、バーベキューを楽しむという工夫を凝らしたイベントを開催。会員からは、「とても楽しい一日だった」という声が聞かれ、成功に終わりました。



↑現在会員 100 人！ 6月6日には、マツダスタジアムで野球観戦も予定。

マリアーージュを人材育成の場と考える女性部会長の鴨宮良江さんは、
「会員自身が、活動の中でリーダーシップを発揮できたり、今まで知らなかった自分の良さを発見できたりすれば、異性へアピールする自信にもつながるかもしれません。」と話します。また、
「個人情報になるので詳しくは言えませんが、様々な職種の人が登録しています。様々な人が出会う場だからこそ、いろいろな経験もできます。結婚だけがゴールではなく、会員の成長もゴールの一つ。」と、実行委員長の柿本弥生さん。
「出会い」と「成長」をキーワードに、マリアーージュは会員のみならずのすてきな「ご縁」を応援しています。

竹原を元気にする“市民力”

地域の人と共に竹原の歴史を後世に



後世に伝えるふるさと再発見事業 委員会/賀茂川流域ネットワーク 事務局 新本 直登さん

「先人が生きてきた証である竹原の歴史をたどりたい。それを地域の人たちと連携しながら後世に伝え、観光資源としても活用できれば。」

そう熱く語るのは、昨年度の公募型補助金採択事業「後世に伝えるふるさと再発見事業」と今年度の採択事業「賀茂川リバートレイル」の発案者の一人である新本直登さん。

新本さんは、長年、歴史の専門家や地域の歴史に詳しい住民などと交流を深め、竹原の歴史を学びながら、市史を編さんしています。

昨年は、「後世に伝えるふるさと再発見事業」として、荘野公民館を拠点に、小早川氏などの歴史をテーマとした講座や、歩きながら旧山陽道の歴史をたどるイベントを開



↑講師を招いて講座を開きました。

催。
「現在、講座などで地域の人たちと学んだ荘野の歴史を地図にし、『ふるさと荘野再発見地図』として配布を予定。歩いたり、見たり、聞いたりしながら、実は知らない地域の歴史を楽しんでほしいですね。」
今年度は、新たに「賀茂川リバートレイル」の事業にも取り組み、隠れた歴史が眠る賀茂川沿いを中心に、様々な団体と協働して、イベント等を開催する予定にしているそうです。
人と人をつなぎ、竹原の魅力を教えてくれる歴史。みなさんも歴史にふれてみませんか。